June 1955 data

E. Iverson

鮪漁業

TUNA FISHING

No. 25, 1955

MAY 1955
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE SERVICE

——目　次——

鮪漁船紹介　神宮丸　ながさき丸

鮪漁場圖　(昭和30年6月操業)

三崎、他四港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察 (昭和30年6月)… 1

1 調査の概要 …… 1

2 漁況の概要 …… 1

3 漁況の予報 …… 2

4 12月から1月にかけての漁況予報 …… 2

5 各漁場の漁況 …… 4

鮪類標識放流について……15

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表(昭和30年6月操業分) 別表1 ……16

月別、漁場別、鮪類体長組成表(昭和30年6月操業分) 別表2 ……20

The Investigative Society of Tuna Fishery, Misaki

鮪漁業研究會

倉敷ビニロン

クレモナ 万漁

鮪延縄　ロープ　漁網

クレモナ延縄により操業中の江の島丸

くさらない

使いやすい

値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2(第一命生ビル)

東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

新工場落成量産開始

太洋無線が全世界に誇る

船舶用
航空機用
陸上用
各種 **自動方向探知機**

太洋無線株式会社

東京都澁谷區衆樂町48番地

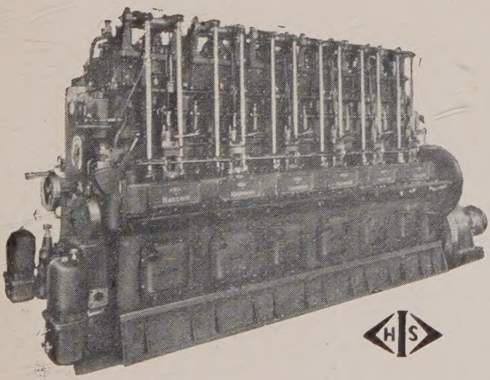
電話澁谷(46)代表 5283—9番

光電の方探

全方向自動直視式

7つの特許が生んだ
世界的製品

株式會社 光電製作所
東京都上大崎長者丸284の1
電話大崎(49)3265.5335.7438.7981



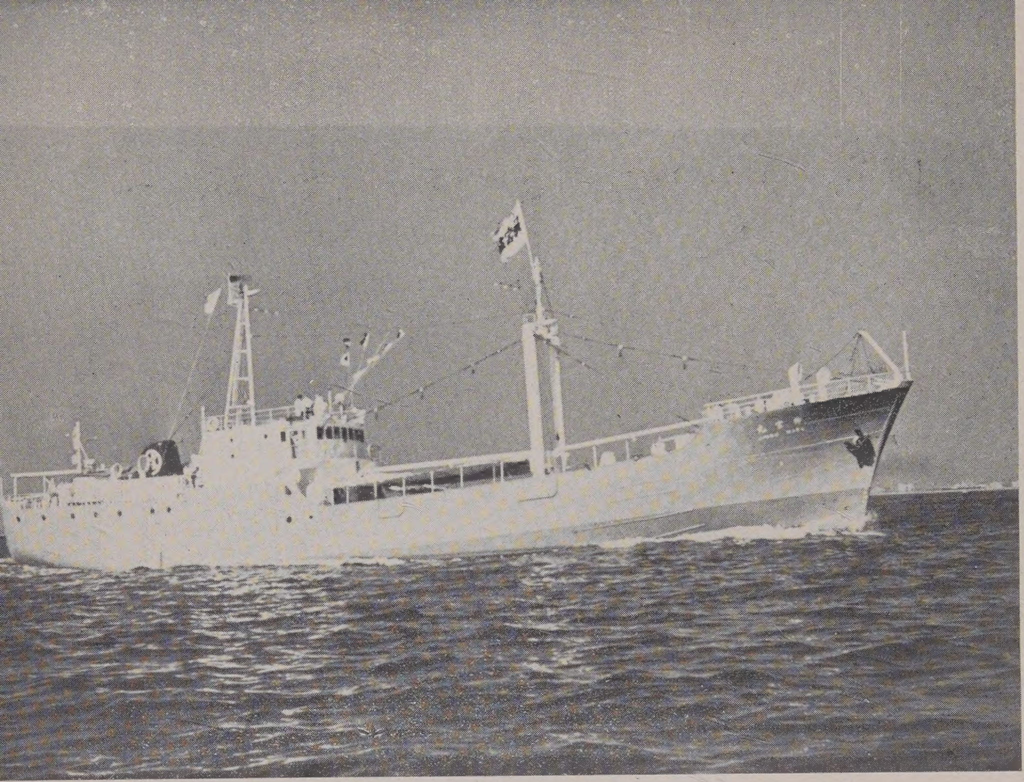
阪神 T6 Z900 HP (鮪漁船第12住吉丸主機圖)

ハンシン デイーゼル

陸舶用デイーゼル
50 HP — 1200 HP

阪神内燃機工業株式会社

本　社	神戸市長田区一番地1丁目	電話 湊川(5) 1531—6
東京支店	東京都千代田區丸ノ内・丸ビル60区	電話和田倉(20)3640—1
下関出張所	下関市豊前田町・第一ビル内	電話 下関 768



神　宮　丸

船　主　三信汽船株式会社　（東京）
造船所　塩山船渠株式会社（大阪）

主要寸法	長48.72m×幅8.50m×深4.25m
總屯数	499.50屯
魚艙容積	491.78m3
燃料油艙	290.68m3
速力	（最大）12.65節
主機	デーゼル900HP 1基
補機	デーゼル120HP 2基
無線	200W 50W 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式高速多氣筒2基
レーダー．方向探知機	各1式
竣工	昭和30年8月12日

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式會社

本　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL．北浜（23）1334．2351
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL．銀座（57）4385．6810
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL．清水 2203
三崎連絡所　三浦市三崎町西浜46　海洋電機工作所　TEL．三崎 443

施工船名
オ18富久丸
海鷹丸
蒼鷹丸
土佐海援丸
オ8清勝丸
（其の他約貳百隻）

ながさき丸

船　主　長崎縣南方漁業株式会社
造船所　林兼造船株式会社

主要寸法	長 47.13m × 幅 7.50m × 深 3.85m
總屯数	352.40 屯
魚艙容積	約 350m³
燃料油艙	164m³
速力	(最大) 12.1 節
主機	デーゼル 650HP 1基
補機	デーゼル 100HP 2基
無線	200W 50W 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 50HP 2基
方向探知機. 魚群探知機. クリヤアピユウスクリン	各1式
竣工	昭和30年4月20日

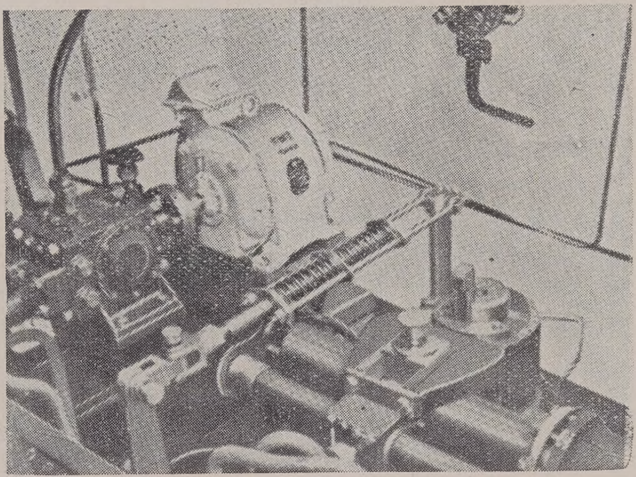
強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶對経験と信用のあるメーカー

クレモナ
万　漁　國產製麻株式会社

本　社　東京都中央區京橋三丁目四番地　電話東京(28)6605・6606番
工　場　栃木県鹿沼市朝日町 電話(鹿沼)242・243番　同上野町 電話(鹿沼)377番

三菱小型ジャネー式
電動油圧舵取装置



1馬力・2馬力
3馬力・5馬力
を量産中です。

三菱造船株式會社

本　社　東京都港区芝琴平町一番地
電話 芝(43) 5111・6111 (代表)
營業所　神戸・大阪・福岡
工　場　長崎造船所・下關造船所
廣島造船所・廣島精機製作所

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装備・補修一式

七洋電氣株式会社

取締役社長　満石英一
取締役　橋本清
取締役　長田孝

本　社　東京都目黒区上目黒3丁目1869番地
電話 澁谷(46) 8070・0606 番

三崎他四港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察 (昭和30年6月)

三崎　神奈川県水産試験場　野村、齋藤、下里、中込、石渡、藤平
東京、燒津　南海区水産研究所

1 調査の概要

昭和30年6月分として調査せる鮪延縄船數は三崎40, 東京35, 燒津20, 計95, で5月より更に少くなつている。

此の減少は台湾東海、西部太平洋亞熱帶海區、等の日本近海の船が激減したためであるが南洋南部、印度洋方面でも減少している。

サモア附近は略同率でハワイ南西海區は稍増えている。

調査海區も17から13へと減少を示し体長測定船數も43と減少した。

2 漁況の概要

ソロモン海區170°Eからサモア海区170°Wにかけてのキハダは略同傾向にあつて且つ比較的規則変化をして居り、ソロモン海区0°—5°S, 170°—180°Eの海区では4, 5, 6, 月と釣獲率の上昇が見られ5°—10°S, 170°—180°Eとサモア海区では5月を頂点に6月から低下し始めた[1]。

小スンダ, チモール沿海12°S以北のキハダの釣獲率は3月に頂点に達し6月にかけては低下しているが[2]、アンダマン, ニコバル海区のキハダも5月から6月にかけて激減している。

南洋南部5°N以南は全般的に低下の過程にある。

ハワイ南西海区5°N以北のメバチの釣獲率は28, 29年共に高率期に著しい低下が見られたが、30年は4月に僅かにその徴向を見せただけで5月から6月にかけては既に低下し始めた。

南洋北部170E以東も略同様で6月まで高率(2.0)が續いた[3]。

西部太平洋亜熱帶海区のメバチは5月と同様150°E線に明瞭な分布線が見られその東側が高率になつて居り、此の範圍に漁場が形成されている事を示している。

0°, 180°の附近のビンナガは復雑な變化を示している。

ハワイ南西海区5°N以南は5, 6, 月と稍高い釣獲率を示し、サモア海区は激減から激増へと4月を基点に急激に轉位して居り著しい高率を示している。

南洋南部 5°N 以南 170°E 以東は 4 月を最高に 5, 6, 月と低下して居り、ソロモン海区 170°E 以東の 0°—5°S では 4, 5, 6, 月と上昇し 5°—10°S は 5 月を頂点に 6 月は低下している。

印度洋では、小スンダ, チモール沿海、西部印度洋海区、共に 3 月以降上昇経過をたどつている。

160°W 以西太平洋のクロカワは北上回游を續け、ハワイ南西海区 5°N 以北は 6 月に致つて著しく増加を示したが、西部太平洋亜熱帯海區も 4 月以降急激に増加して來た[4)]。

收斂線以北に分布密度の低い事は周知のところであるが、6 月もキハダと共に 25°N で明瞭に区劃されている。

印度洋ではアンダマン, ニコバル海區、スマトラ西岸沿海で著しく上昇している。

シロカワは小スンダ, チモール沿海、スマトラ西岸沿海共に高率を示している。

5 月まで活況を呈していた西部太平洋亜熱帯海区のマカジキ漁場は 30 年には 1 ヶ月早く 6 月には既に衰え始めた。

5 月に多かつたフイリッピン東海のマカジキも 6 月には激減しているが、スマトラ西岸沿海では上昇期にある。

3 漁況の予報

1) サモア海区北西部のキハダは 9 月頃にかけて低下を続け 2 月頃まで低率を続けるものと思われる。

2) 小スンダ, チモール沿海のキハダは 8, 9 月頃にかけて低下を続け、後上昇に轉ずるものと思われる。

3) ハワイ南西海区 5°N 以北と南洋北部 170°E 以東のメバチは 6, 7 月頃から 10 月頃まで低下し前者は 10 月以降上昇して 1—6 月の高率期に入り、後者は 12 月頃から上昇し始めるものと思われる

4) 北上回游期にある 160°W 以西太平洋のクロカワは、7 月頃を頂点に後南下し始め西部太平洋亜熱帯海区は 7 月を最高に後は 9 月頃迄に低下 11 月頃には全く釣れなくなり、南洋北部 170°E 以東は 9 月頃まで高率を続け、後、0.2—0.3 位にまで低下して低率を續けるものと思われる。

5) 西部太平洋亜熱帯海区のマカジキは 9 月頃までに著しく低下し、後、2 月ころまで 0.1 附近の低率を続けるであろう。明春此の海区に漁場の形成されるのは 5, 6 月頃と思われる。

4 12月から 1 月にかけての漁況予報

（キ　ハ　ダ）

舊南洋庁沿海南部からハワイ南西海区にかけての5°N以南の海区では130°—160°Eの漁場は活況を呈し、160°E以東は不漁を呈する。

ソロモン海区の0°—10°Sでは活況を示すが、操業海域による豊凶の差が激しく、10°Sからニユーカレドニヤ海区にかけては全般的になお好漁を示す。

サモア海区に於いては不漁であるが、

トンガ海区では比較的好漁を示すかもしれない。

西部太平洋亜熱帯海区、舊南洋庁沿海北部は魚群南下の終期なので不漁であろう。

小スンダ,チモール沿海附近では好漁期に入るが變化の差が激しく盛漁期間の短い漁場なので12—1月の間の短期に活況を呈するであろう。

（メ　バ　チ）

ミッドウエー海区は秋期から次第に盛漁となり12月頃には釣獲率が2.0—2.5位に達する。

此の漁場は西部太平洋亜熱帯海区150°Eにまでわたるが、此の海区はミッドウエー海区程好漁ではなく、又1月になると急激に衰える。

旧南洋庁沿海南部170°Eからハワイ南西海區にかけての5°N以北は12月では未だ早く、前者は1月末から2月にかけて、後者は1月頃から活況を呈する。

旧南洋庁沿海北部170°E以東は好漁に向つているが未だ盛漁期には早い。

舊南洋庁沿海南部130°—150°Eの5°N以北は不漁期に向かつて居り、12月はなお高い釣獲率を示すが、1月は海域によつて激減する事が予測される。

（ビ　ン　ナ　ガ）

小スンダ,チモール沿海、及びソロモン海区はメバチ、インドマグロと共に低率期にある。

北部太平洋漁場では30°—35°N,150°—180°Eの海域が最盛期35°—40°N,150°—180°Eの海域は12月を最高に低下し始め、伊豆東方海區と西部太平洋亜熱帯海区はなお上昇期であるが共に好漁を示すであろう。

（カ　ジ　キ　類）

160°W以西太平洋のクロカワは南下の終期に当り、赤道以北は不漁、以南は好漁を示すがなお上昇期にあつて最盛になるのは此の少し後であろう。

ソロモン海区のシロカワは11月頃から活發となり始め、12,1月はかなりの高率で最盛となりマカジキと共に好漁を示す。

北部太平洋のマカジキは30°—40°N,150°—180°Eの海域の漁場が衰退した直後で

不漁を呈するが、35°—40°N, 150°—180°E の海域にはメカジキ漁場が形成され、伊豆東方海区と共に好漁を呈すであろう。

5 各漁場の漁況

A ハワイ南東海區、ハワイ南西海區

2 海区にまたいで操業しているために分離して各海区で用いた資料があるので、ハワイ南西海區の実際に調査した隻数は 17 で 5 月より著しく多くなつている。

操業海域は、ハワイ南東海区では西端であるが、ハワイ南西海区も 1 隻を除いて西半に偏して居り 170°W 以西である。更に 5°N 以北は 9°—11°N に集中して居る。

(キ　ハ　ダ)

5°N 以北は極めて低い釣獲率 0.12 で 5 月の 0.55 の率と異るが、5 月も 8°S までわたつて操業した船は高率(0.73, 0.66)で 10°—11°N 操業の船は極めて低い (0.12)。4 月も多い船と低い船があり、6 月に見られる 1 隻の高率 0.41 も同様の原因と考えられる。

以南は 3.04 で高率であるが 5 月より稍低く、27, 28, 29 年各 6 月の高率に比べて著しく低い。

南東海区は 2°—3°N, 160°—150°W の海域で操業して居り、更に高い釣獲率 5.02 を示している。

南西海区 5°N 以南にも 5.78, 5.62 の高率船がみられるが 0.85 という低率船も見られ、その變異は激しい。体長組成は南東海区より南西海区 5°N 以南の方が型が大きく 29 年 6 月と全く逆である。

南西海区 5°N 以南の組成は 5 月に比して中型が多くなつている。

(メ　バ　チ)

ハワイ南西海区 5°N 以北の釣獲率は 1—3 月の高率から 4 月に僅かに低下し 5 月に再び僅かに上昇したが 6 月は著しく低下し始めた。28, 29, 30 年と高率期に見られる低下が次第に小さくなつて居り、高率期と低率期が明瞭に分かれて來ているので 7 月以降は 5—6 月の低下を続けて行くものと推察される。

以北も變異は見られるが以南は 1°S—2°N の 2 隻は極めて低率 (0.26, 0.51) で 2°S—4°N の 2 隻は高率 (0.82, 1.16) であり、低率の 5°N 以南に於いては北よりに高率になつている様である。

体長組成は 5°N 以北、以南共に 4, 5, 6 月と型は少しづつ小さくなつて來た。

(ビ　ン　ナ　ガ)

ハワイ南西海区 5°N 以南は 0.32 南東海区 5°N 以南 0.47 で 5 月の南洋南部 170°E 以東の 5°N 以南と共に稍高い率を示している。しかし南西海区 5°N 以南は 1 隻が 1.56 1 隻が 0.38 で 1°S—2°N の 2 隻が釣れて居り、他の 2 隻は全く釣れていない。此の現象は 5 月の南洋南部 5°N 以南でも同様である。此の海區の 5 月も略同率であり、28, 29 年同様高率期にあるが変化は異つている。

ハワイ南西海區 5°N 以南の体長組成は 91—100cm にモードがあり、ハワイ南西海区 5°N 以南の体長組成は 91—100cm にモードがあり、ハワイ南東海區は 81—90cm にモードが見られるが 80cm 以下は全く見られず偏つた組成を成して居り、南洋南部 170°E 以東と同形である。

(ク　ロ　カ　ワ)

ハワイ南西海区 5°N 以北は 28, 29 年共上昇して來た。5 月から 6 月にかけては僅かに一旦低下し、後、8 月にかけて著しく上昇して居り、27 年は 4 月から 5 月にかけて此の現象が見られているが 30 年は此の現象が見られず、3 月以降 6 月まで急激に上昇して來て 0.85 に達した。

或は 7 月に一旦低下するかもしれないが 8 月にかけて更に上昇すると思われる。

5°N 以南は 5, 6 月共以北より著しく低いが同様に上昇して居る。

5°N 以北の体長組成は 29 年と同様で 5 月より稍散らばり (分散) が大きくなつて居り、型の大きさは変化が殆ど見られない。以南は 5 月同様極めて散らばりが大きいが 5 月より型は小さい。

B　サモア海区、トンガ海区

サモア海区は南洋南部 170°E 以東に亘つて操業している 1 隻があるので実際の調査隻数は 13 である。同海区の操業海域は殆んどが 170°E 以西で 2 隻のみが 165°W にまでわたつて居り、トンガ海区では 2 隻とも西北端で操業している。

(キ　ハ　ダ)

サモア海区の釣獲率は 1 月から 5 月まで上昇して來たが 6 月は 5 月より低下し、29 年と同様の變化を示している。此の変化が周期性のものなら 7 月以降は此の低下を秋期まで続けるものと考えられる。トンガ海區は 12, 1, 2 月と上昇し 3 月には低下したが 6 月は更に低下して 0.51 となり、前海区の 2.77 に比し著しく釣れなくなつている。サモア海区の率は船により著しい差が見られるが 0°—5°S の船が高率であるのに對し 12°, 15°S にまで南下操業した船 2 隻と 9°—10°S まで南下操業した 3 隻の内の 2 隻は 1.05—1.97 で低率である。

トンガ海区の低率と何か関係があるかもしれない。

（メ　バ　チ）

ソロモン海区と同様極めて低い釣獲率であり、1 月以降上昇して來た後 4 月から 6 月へと低下して來ている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

7 月から 11 月、30 年 1 月と上昇し、2 月から 3, 4 月と著しく低下して 0.29 という低率になつた釣獲率は 5 月 1.21, 6 月 1.70 と再び激増して來たがトンガ海區では 12, 1, 2 月と激減した後 3 月には上昇し、6 月には再び著しく低下している。

ソロモン海区 170°E 以東でも 0°—5°S の海域は 4, 5, 6 月と上昇し、5°—10°S の海域は 5 月まで上昇して 6 月には著しく低下しているので両者の海區は同傾向にあると推察される。

（ク　ロ　カ　ワ）

サモア、トンガ両海区とも低率で、サモア海区に見られた 170°W 線、トンガ海区に見られた 20°S 線による差は殆んど見られず、前海区は両海域とも同率で冬季高率、夏季低率の 170°W 以東の周期変化を続けて居り、後海区は 20°S 以北の海域に於いて極めて低い率を示している。

C　旧南洋庁沿海北部（南洋北部）、舊南洋庁沿海南部（南洋南部）

南洋北部は 5 月と同様 170°—180°E の南端で操業している。南洋南部の経度 10° 毎の主なる魚種の漁況は、第 1 表に示す。

Trust Terr. Area

Table 1 南洋北部、南部各海区の漁況 昭和 30. 6

区分		操業区域	調査隻数	操業回数	鈎数		キハダ YF	メバチ BE	ビンナガ AL
140°—150°E		0°—9°N 140°—152°E	4	59	75,924	尾數 釣獲率	2049 2.70	501 0.66	277 0.36
150°—160°E		1°—8°N 151°—162°E	4	73	116,068		2010 1.73	656 0.57	436 0.38
160°—170°E		1°—9°N 162°—167°E	3	49	73,290		1451 1.98	582 0.79	313 0.43
170°—180°E	南洋北部	10°—12°N 172°—177°E	3	51	76,716		152 0.20	1553 2.03	603 0.79
170°—180°E	〃 南部	1°S—11°N 170°E–179°w	10	202	336,977		7616 2.26	3215 0.95	1745 0.52

（キ　ハ　ダ）

140°—150°E の 5°N 以南の釣獲率は 5 月より僅かに低下したが 4 月と殆んど同率で高率を続けて居り、以北、以南共に平行して見られる春季高率期がなお持續して

いると考えられる。

150°—60°E の 5°N 以南は 6 月も 2 月以降の低下を更に続けて居り、29 年の同期變化と多少異つている。夏季の低率期に此のまゝ入る様に思われる。

160°—170°E の 5°N 以南の略同程度の高率であり、以北は遙かに低いが 3 月以降上昇の過程にある。

南洋北部 170°—180°E は極めて低く、南洋南部 170°—180°E の 5°N 以北と同様であるが、前者は略同率を続けているのに對し、後者は 5 月まで低下を続けて來て 6 月に稍上昇した緩かな変化が見られる。

5°N 以南は周期変化をたどつて春季の高率から低下の過程にあるが、28, 29 年に比べて時期的に稍早い。

170°E 以西の体長組成は前号に詳述した如く若年魚のモードは更に大きくなつて居るがゝ以東は 5 月に見られた復モードの内の小型から若年魚にかけてのモードは殆んど消滅し中型が 63.5% を占める單モードとなつている。

(メ　バ　チ)

150°E 以西に於いては秋期以降 5°N 以北が低下して來たので 5 月には 5°N 南北別による差は全く見られなかつたが 6 月には 170°E 以西全般的に南北差は不顯著となつている。140°—150°E の 5°N 以南は 4 月以降同率を續け高率期にあり (以南としては) 150°—160°E の 5°N 以南は 5 月まで上昇して來て 6 月に激減しているが 160°—170°E は 5°N 以北は 5 月より著しく低下し以南は上昇している。

170°E 以東は 2 月以降月の變る毎に激変を繰り返しながら高率を續け、6 月は三度び 2.0 以上の高率を示した。南洋北部 170°E 以東は尙 2 月以降の高率を續けて居り、周期変化をたどつているので 8 月頃から低下に入るのではないかと思われる。

170°E 以西の体長組成は 101—110cm のモードが著しく增え、平均体長が 3 月 133.0, 4 月 131.7, 5 月 130.2, 6 月 125.5cm と示す様に 3 月以降型は次第に小さくなつて来て居り 6 月の傾向は 28, 29 年とは異つている。

以東は 5 月と殆んど同程度の型を示しているが散らばり (分散) が小さくなつて居り 111—160cm が 88.1% を占め 67.3% を占めていた 5 月と著しく異つている。

南洋北部 170°E 以東は又組成を異にし 131—140cm に單モードを持つている。

(ビ　ン　ナ　ガ)

5 月各海区 5°N 以南に於いて稍高率を示した釣獲率は 6 月にはどの海區も著しく低下し 150°—160°E, 170°—180°E の海区で僅かに殘つている程度である。

(ク　ロ　カ　ワ)

170°E 以西は前号でふれた様に 4,5 月の停滯から 6 月にかけて僅かに低下したが、此の現象は 29 年にも見られて居り、又附近海區でも見られ居るので周期的の様に思われる。7 月以降更に上昇するものと推察される。以東は全く停滯期で 4 月以降同率を続けており、南洋北部 170°E 以東に於いて 4—5 月の上昇の後の 6 月にかけての停滯と関連があるかもしれない。しかし南洋南部 170°E 以東を 5°N で南北分離すると停滯しているのは以南の海域で、以北は 3 月以降著しい上昇期にある。
170°E 以西の体長組成は 140cm 以下が増加し、又 201—210cm にモードが現われているが、主要モードは 151—160cm にあつて 29 年 11 月以降同傾向で變化はなく 29 年 6 月とは著しく異る。以東は 5 月より稍型が大きいが全体的に散らばり（分散）が著しく大きくなつている。
南洋北部 170°E 以東は南部以東と略同形である。

D ソロモン海区

サモア海区にわたつて操業し、分離した資料があるので実際の調査隻数は 4 である 2°—4°S, 145°—147°E のニューギニヤ北方で 1 隻、1°N—6°S, 166°E 以東で 3 隻が操業している。

（キ　ハ　ダ）

0°—5°S, 140°—150°E の海区の釣獲率は 3.90 で高率を続けている。28 年、29 年共に周年高率で 9 月のみ非常な低率となつている。
両年共に 10, 11 月が調査されていないが 150°—160°E でも同變化なので或は周期變化として 30 年にも生ずるかもしれない。0°—5°S, 160°—170°E の海区は 3 月と略同率の 2.00 を示しているが 170°—180°E の海区では 4 月以降次第に上昇して来て 6 月には 4.70 を示しており両海區間に差が見られる。
5°—10°S, 170°—180°E の海區は 5 月まで上昇を続け 6 月は低下して 2.20 となつている。此の南よりに低率の傾向がサモア海区にも見られている事は既述の如くである。6 月の体長組成は 4 月に出現した若年魚の　ードが小型へと移頃して非常に大きくなり、一方中型のモードは此れに比し小さくなつたので全体としての型は小さくなつているので 29 年 6 月とは組成の型も變化も全く異る。

（メ　バ　チ）

0°—5°S の海区の釣獲率は多少の變化かみられるが低率を続けており、5°—10°S は上昇した 2 月以降 0°—5°S より稍高い 0.3—0.4 の率を続けていて變化がない。
体長組成は 111—120cm のモードが消え 101—110cm のモードと 121—130cm のモ

ードと共に3モードを形成している。

(ビ ン ナ ガ)

5°—10°S, 170°—180°E の海区の釣獲率は3, 4, 5月と上昇し6月には僅かに低下したが0°—5°S, 170°—180°E の海区は尚上昇の過程にあり、サモア海区も激減した4月以降急激に上昇しており、又、ハワイ南西海区5°N以南は5月と同程度の高率を続け、南洋南部170°E以東5°N以南は急激に低下しているので、此れら海区間に何らかの関連があるかもしれない。

体長組成は29年11月—30年5月までの91—100cmが50%以上を占めていた形に比べて81—90cmが50%以上を占めており稍型が小さくなつている。

(ク ロ カ ワ)

4月に0.50にまで達した釣獲率は5月に僅かに低下した後6月には著しく低下しており28年と非常に似た變化であるが29年とは全く異つている。10月頃まで低下してゆく事は推察されるが、後、28, 29年何れの変化をたどるかは注目に價する。

体長組成は4, 5月に161—170cmに見られたモードが151—160cmに移つているので型は小さくなつている。28, 29年の変化と多少異る。

E フィリッピン東海

19°—20°N, 128°—129°E の北端で2隻が操業している。此の2隻は同一船が同月内に2航海操業した結果である。

(キ ハ ダ)

台灣東海近くで操業しているので、月報33号、鮪漁業23号で既述した様に此の海区としては低い釣獲率であり、變化は4—5月と上昇した後6月は僅かに低下しており明瞭ではない。

体長組成は131—140cmに主要モードがあつて中型が75.1%を占め同海域の4月の組成より稍型が大きい。

(ク ロ カ ワ)

釣獲率は4月以降0.17, 0.21, 0.42と次第に上昇して來ており、此の海域にも増加している事がうかゞえる。

体長組成は151—160cmにモードがあつて南洋南部170°E以西、西部太平洋亜熱帯海区170°E以西と同形であり、又、4月とも同形である。

F 東部印度洋方面

小スンダ，チモール沿海

6°—11°S, 116°—125°E でバンダ，フロレス海区にかけて1隻操業している。

（キ　ハ　ダ）

小スンダ，チモール沿海12°S以北に於いては27, 28年とも12月に最も高い釣獲率で2月は著しく低下しているが、29年は12月は2.08でなお低率で、30年1月に致つて4.95と高率になつている。

しかし30年は3月になお高く5.60となり6月に致つて3.80と低下しており、春季間高率を示し、28, 29年の變化とは異つている。9月頃にかけて低下を続ける事は推察される。

（メ　バ　チ）

周圍海区と同様に小スンダ，チモール沿海12°S以北も冬季から春季低率、夏季から秋季にかけて高率の周期變化をたどつている様子で、10月1.25から3月0.15にかけて低下して來た率は6月にかけては上昇している。

恐らく7月以降は更に上昇するのではないかと推察される。

（ビ　ン　ナ　ガ）

小スンダ，チモール沿海12°S以北の 29年春季の變化は不明であるが、28年は5月周圍の海区では28, 29年共晩春から初夏にかけては非常に高い釣獲率を示しており12°S以北の30年6月は1.20で3月より高いので 4, 5月か7月頃著しい高率期があるのかもしれない。

（カ　ジ　キ　類）

クロカワの12°S以北の釣獲率は1, 3月より稍高いが、い然として低率である。

シロカワの同海区の釣獲率は29年12, 1月と上昇し3月は低下したが6月は0.71と著しく上昇している。

アンダマン，ニコバル海区、スマトラ西岸沿海

スマトラ西岸沿海で1隻、スマトラ西岸沿海からアンダマン，ニコバル海区にわたつて1隻操業している。

（キ　ハ　ダ）

アンダマン，ニコバル海区は5月から6月にかけて4.80から2.85と激減しているがその南側であるスマトラ西岸沿海0°—6°Nの海区は2, 3, 4月と低下して5月は上昇し、6月は同率を続けて3.10を示している。

此の海区間の差の原因は調査点が少いので不明である。又、此れに関連して体長組成にも差が見られ、アンダマン，ニコバル海区よりスマトラ西岸沿海の方が大型が

多く、中、小型が少いが両海区とも周期的形態をなしており、後者海区は29年と同様冬から夏にかけて小型以下が次第に減少して來た。

(メ　バ　チ)

スマトラ西岸沿海0°—6°Nの海区の釣獲率は2,3,4月と著しい減増減をして、5月から6月にかけてはアンダマン，ニコバル海区と共に再び上昇している。

体長組成は両海区とも2モードを持つているが両モードともスマトラ西岸沿海の方が1區間(10cm)小さいが、此の海区は29年の組成と多少形を異にしている。

(ク　ロ　カ　ワ)

スマトラ西岸沿海0°—6°Nの海區の釣獲率は0.86から1.53，アンダマン，ニコバル海區は0.53から0.88と5月から6月にかけて著しく上昇しているが、前者海區6月の高率は始操業以来始めてである。

体長組成は両海区共171—180cmにモードがあるが後者海區の方が稍型が小さい。

(其の他のカジキ類)

シロカワの釣獲率は両海区共略同率で5—6月は同様の低下をしているが詳細な變化は不明である。

アンダマン，ニコバル海区のマカジキは5(0.11)—6(0.28)月と上昇しているが、スマトラ西岸沿海は明確には言えないが周期變化をしている様で3月の最低から上昇の過程にあり、夏季から秋季にかけて高率期の様である。

G 西部印度洋方面

西部印度洋海区

調査隻はアンダマン，ニコバル海区と分離した資料があるので實際は11隻である。操業海域は殆んど3°N—3°S, 60°—73°Eに集中しているが1隻は2°—24°S, 57°—70°Eの海域で操業している。

(キ　ハ　ダ)

W. Indian Ocean YF c/r

Table 2 西部印度洋各海区のキハダの漁況

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N					2.85 3.59
2°N–0°		8.10	7.30		
0°–2°S	6.90	7.45			
2°S–9°S	11.30	7.65			

釣獲率は船間に非常な差が見られるが第2表の如く全般的に5月以前より低率であり1,3,4月と低下して5月に激増した後6月に致つて4月(11.05)より更に低い7.90にまで激減している。従つて5月の高率及び前後の関連は全く不明である。

体長組成の小型から若年魚に見られる小さなモードは4月以降次第に型が大きくなつているが、中型から大型にかけて見られる主要モードは4月以降全く同形である。

（メ　バ　チ）

W. Indian Ocean BE c/r

Table 3　西部印度洋各海区のメバチの漁況

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N					1.44 1.23
2°N–0°		1.85	0.60		
0°–2°S	1.00	0.75			
2°S–9°S	0.53	0.80			

メバチの釣獲率は0°N—1°30′S, 57°—60°Eで操業した1隻が1.88の高率であるが他船は略同程度である。

第3表の如く海区による差も見られるが、5月にみられた様な顕著な赤道による南北差は0°—2°N, 70°—80°Eの海区が低率なので6月には顕著とは言えない。時間的變化も顕著な傾向は解らない。体長組成は又變化が励しく、小型から若年魚にかけてのモードの変化は全く不規則である。

（ビ　ン　ナ　ガ）

W. Indian Ocean AL c/r

Table 4　西部印度洋各海区のビンナガの漁況

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N					0.06 0.50
2°N–0°		0.42	0.00		
0°–2°S	1.05	2.00			
2°S–9°S	2.30	1.60			

5月は明瞭に2°N以北は低率以南が高率で明瞭に境されていたが6月は略赤道で境されている様であり、又5月に見られた様な南よりに高率を呈す現象は顕著ではない。西部印度洋海区全体としては最低下した3月以降上昇の過程にある。体長組成は5月と同様101—110cmにモードがあるが5月より大型が著しく増えて中型以下は減り、型は大きくなつている。

（ク　ロ　カ　ワ）

BM

Table 5　西部印度洋各海区のクロカワの漁況

	50°E–60°	60°–70°	70°–80°	80°–90°	90°–100°
10°N–2°N					0.88 1.41
2°N–0°		0.95	1.11		
0°–2°S	0.43	0.29			
2°S–9°S	0.15	0.19			

クロカワの釣獲率は西部印度洋海區全般的には各月毎に增減を繰り返していて規則性は解らないが、各海區に分離すると、赤道以南は3区とも5月と同率で赤道以北は5月より著しく上昇しており高率を示している。

但し0°—2°S, 50°—60°Eの海区は5月の0.09から6月は0.43と激増してい

る。

上記の変化は回游の鍵ともなり得るので今後が注目される。

体長組成に於いてモードの位置は4月以降變わらないが、4月から5月にかけては中型が増えて小型が減り、5月から6月にかけては小型が増えて中型が減つている。

(其の他のカジキ類)

シロカワ、マカジキ、メカジキ共に極めて低率であるが、シロカワは4月まで低下を続けて來、5,6月と上昇して0.10となり極めて規則的である。

H 西部太平洋亜熱帯海区

操業海域は 130°—140°E では1隻が 20°—24°N で行つている。他は 24°N 以北に限られているが、又 133°N 以西の西端に偏している。

140°—150°E の南端では6隻が 20°—22°N, 141°—145°E に集中しており、26°N 以北では各海域に散在している°

150°—160°E では 149°—157°E で北端に偏している。160°E 以東は調査されていない。

各海区の漁況は第6表に示す。

W. Subtropical Pacific

Table 6　西部太平洋亜熱帯海区の各海区主要魚種の漁況

區分	操業海域	調査隻数	操業回數	鈎数 Hooks		キハダ YF	メバチ BE	黒マグロ	クロカワ	マカジキ	メカジキ	
130°—140°E	20°—29°N 129°—135°E	8	87	100.400	尾數	302	30	174	106	363	45	fish
					釣獲率	0.30	0.03	0.17	0.11	0.36	0.04	c/r
140°—150°E	20°—30°N 140°—153°E	13	204	268,756		995	250	1	891	476	624	
						0.37	0.09	0.00	0.33	0.18	0.23	
150°—160°E	26°—30°N 149°—157°E	4	61	103,035		16	454	1	46	225	351	
						0.02	0.44	0.00	0.04	0.22	0.34	

メカ縄船は 140°—150°E で3隻、150°—160°E で2隻見られている。

(キ　ハ　ダ)

Table 7　(表6)の 25°N 分離によるキハダの漁況の比較

	130°E–140°	140°–150°	150°–160°
25°N–30°N	0.19	0.26	0.03
20°N–25°N	1.30	0.71	

170°E 以西の釣獲率は 4月から上昇した5月の 0.30 と略同率の 0.28 で 28 年と同變化であるが、25°N で分離すると南北間に明瞭な差が見られるので、恐らく、28, 29 年と共に初秋高率の周期變化に向かつて上昇している様に思われる。

表7に於いて 25°—30°N, 140°—150°E が僅かに高いのは、亜熱帯收斂線が斜めに、且つ多少の復雑性を持つて走つているためと

考えられる。

170°E 以西の体長組成は 29 年と同様 2 モードは次第に近付いて、6 月は殆んど單モードに近くなつている。

主要モードは 101—120cm にあつて 60.3% を占めている。

（メ　バ　チ）

160°E 以西ではメカ繩船非メカ繩船の如何に関係なく 150°—160°E のみ高い釣獲率であり、5 月に見られた 150°E を境に西に低率、東に高率の現象と全く同傾向であり漁場が東に偏している事を示している。

170°E 以西としては 4 月から 5 月にかけて低下した後、6 月にかけて上昇に転じている。周期性に従つて 12 月にかけ 0.5 附近にまで漸増するものと推察される。

170°E 以西の体長組成は 4, 5 月と同形であつたが 6 月は 80cm 以下が全くいなくなり、若年魚から小型にかけてのモードが著しく増加した。

（ビ　ン　ナ　ガ）

2 月以降低下して來て 5 月に殆んど 0.0 となつた釣獲率は 6 月も 0.01 で全く釣れなくなつた事を示しているが、体長組成は 29 年と同様 4, 5, 6 月と次第に型が大きくなつて來て 4 月は小型 75.8%, 5 月は中型が 67.9%, 6 月は大型が 89.5% を占めている。

（ク　ロ　マ　グ　ロ）

5 月と同様 130°—140°E のみ 0.17 で稍高く、140°E 以東は全く釣れていない。

5 月の 0.14 より僅かに高い。

（ク　ロ　カ　ワ）

Table 8（表6）の25°N 分離によるクロカワの漁況の比較

	130°E–140°	140°–150°	150°–160°
30°N–25°N	0.07	0.10	0.04
25°N–20°N	0.40	0.61	

クロカワもキハダと共に北上回游によつて 4 月以降釣獲率は次第に上昇して來ており、周期變化を繰り返している。

恐らく 7 月頃に最高 0.5 附近を示し、後低下するものと思われる。

高率期が非常に短い事は北限漁場として既述のところである。

クロカワもキハダと同様收斂線の南北で明瞭に分布差が見られ、上柳氏も報告している。

体長組成は南洋南部と同様小型のモードが主要部分を占めるが、此の海区には大型にも散らばり（分散）の大きいモードが見られる。

（其の他のカジキ類）

20°—30°N, 130°—170°E の海域で活況を呈していたマカジキは5月を頂点に減少し始めている模様で、釣獲率は低下し始めた。

8 月頃にかけて 0 近くにまで低下し、後 11 月頃僅かに上昇して 2 月頃までその低率を続けるものと思われる。

メカジキは 2, 3, 4 月と激増し 5 月に又激減したが 6 月は再び上昇し 3 月と略同率を示している。此の現象の原因は不明である。

マカジキの体長組成は中型のモードは 5 月と同形であるが、5 月に若年魚に見られたモードは 6 月には小型にずれている。メカジキは若年魚のもモードが略同形で小型のモードが中型に移つている。

鮪類標識放流について

1　昭和 30 年 11 月 15 日より 11 月 30 日までの間に放流実施の委託をなした船數は 1（標識 15 本）である。

2　昭和 30 年 11 月 15 日より 11 月 30 日までの間に放流実施の報告のあつた船數 2, 放流尾数 3 である

放流実施船名及び放流實施の概要

船　名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚　種（尾　數）
大盛丸	A0992 995	30. 10. 22 10. 20	28°—29°N 167°—168°W	メバチ(2)
3 榮　丸	A0166	30. 7. 22	4°00′N 167°30′W	キハダ(1)

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場 (Area)		操業區域 (Positions fished)	調査隻數 (Boats)	水温 (°c) (Water temp.)	流向 流速 (Current)	操業回數 (Station)	漁具數 (Baskets)	鈎數 (Hooks)		きはだ (YF)	めばち (BE)
ハワイ南東		2°—3°N 160°—156°W	1			20	8,400	42,000	尾數 釣獲率 百分率	2110 5.02 81.6	112 0.27 4.3
ハワイ南西	5°N以北	9°—11°N 177°—168°W	7 (2)	25.5 29.9		162	58,450	271,316	Fish c/r %	327 0.12 3.8	5748 2.12 67.0
	5°N以南	0°—5°N 180°—164°W	6 (4)	26.7 29.0		175	68,230	316,635		9622 3.04 67.0	2164 0.68 15.1
	計		13 (6)			337	126,680	587,951		9949 1.69 43.3	7912 1.35 34.5
サモア		0(2°N)-15°S 179°E-165°W	12 (1)	26.4 28.9		202	72,077	346,451		9595 2.77 54.2	983 0.28 5.6
トンガ		13°—17°S 178°—172°W	2	27.1 28.4		22	6,862	31,390		161 0.51 15.4	82 0.26 7.8
南洋北部 170°E以東		10°—12°N 172°—177°E	3	26.5 27.8		51	14,271	76,716		152 0.20 6.0	1553 2.03 61.8
南洋南部	170°E 以西	0°—9°N 140°—167°E	11	27.0 30.0	ESE 0.5—1.3	181	57,216	265,282		5510 2.08 61.7	1739 0.66 19.5
	〃 以東	1°S—11°N 170°E-179°W	10 (1)	26.3 28.6		202	73,315	336,977		7617 2.26 56.9	3215 0.95 24.0
	計		21 (1)			383	130,531	602,259		13127 2.18 58.8	4954 0.82 22.2
ソロモン		1°—8°N 145°E-178°W	3 (1)	27.2 28.9		62	23,392	108,160		4095 3.79 65.5	194 0.18 3.1
フイリッピン東海		19°—20°N 128°—129°E	2	28.3 29.9		25	7,368	36,840		426 1.16 53.7	81 0.22 10.2
小スンダ チモール		6°—11°S 116°—125°E	1	28.3 29.2		16	5,334	26,655		1017 3.82 55.4	164 0.62 9.0
アンダマン ニコバル		3°—8°N 88°—95°E	1	28.3 30.0		23	8,877	41,440		1179 2.85 50.3	595 1.44 25.4
スマトラ 西岸		3°—5°N 93°—95°E	1	28.7 29.2		14	5,360	25,454		915 3.59 49.4	314 1.23 16.9

June 1955

(昭和30年6月操業分)

(別表 1)

ぐ	ろ		か		じ		き	かつお	雑	さめ	計	記事
AL	BT	SBF										
びんなが	黒まぐろ	いんどまぐろ	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
197			84	2		3	11		66		2585	サメ未調査隻数 1
0.47			0.20	0.0		0.01	0.03		0.16		6.15	サメ体長測定数隻 1
7.6			3.2	0.1		0.1	0.4		2.6		100	
6			2295	10	35	18	15		126		8580	7 2
0.00			0.85	0.0	0.01	0.01	0.01		0.05		3.16	(2) (2)
0.1			26.7	0.1	0.4	0.2	0.2		1.5		100	
1048			1086	62	40	33	11	1	138	170	14375	6 2
0.33			0.34	0.02	0.01	0.01	0.0	0.0	0.04	0.05	4.54	(3) (1)
7.3			7.6	0.4	0.3	0.2	0.1	0.0	1.0	1.2	100	
1054			3381	72	75	51	26	1	264	170	22955	
0.18			0.58	0.01	0.01	0.01	0.0	0.0	0.04	0.03	3.90	
4.6			14.7	0.3	0.3	0.2	0.1	0.0	1.1	0.8	100	
5889			687	75	20	28	75	46	180	121	17699	9
1.70			0.20	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.05	0.03	5.11	(1)
33.3			3.9	0.4	0.1	0.2	0.4	0.3	1.0	0.7	100	0
558			94	2	42	1	19		52	36	1047	0
1.78			0.30	0.01	0.13	0.0	0.06		0.17	0.11	3.34	0
53.3			9.0	0.2	4.0	0.1	1.8		5.0	3.4	100	
98			603	6	1	5	53	18	24		2513	3
0.13			0.79	0.01	0.0	0.01	0.07	0.02	0.03		3.28	1
3.9			24.0	0.2	0.0	0.2	2.1	0.7	1.0		100	
58	2		1026	33	2	19	194	41	78	224	8926	5
0.02	0.0		0.39	0.01	0.0	0.01	0.07	0.02	0.03	0.08	3.36	1
0.6	0.0		11.5	0.4	0.0	0.2	2.2	0.5	0.9	2.5	100	
264			1745	48	18	29	26	66	150	214	13392	9
0.08			0.52	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.04	0.06	3.97	4
2.0			13.0	0.4	0.1	0.2	0.2	0.5	1.1	1.6	100	
322	2		2771	81	20	48	220	107	228	438	22318	
0.04	0.0		0.46	0.01	0.0	0.01	0.04	0.02	0.04	0.07	3.71	
1.4	0.0		12.4	0.4	0.1	0.2	1.0	0.5	1.0	2.0	100	
1097	1		319	15	6	6	167	12	201	138	6251	2
1.01	0.0		0.29	0.01	0.0	0.0	0.15	0.01	0.19	0.13	5.78	(1)
17.5	0.0		5.1	0.2	0.1	0.1	2.7	0.2	3.2	2.2	100	2
10	1		155	2	8	7	58		12	34	794	0
0.03	0.0		0.42	0.01	0.02	0.02	0.16		0.03	0.09	2.16	2
1.3	0.1		19.5	0.3	1.0	0.9	7.3		1.5	4.3	100	
315		3	48	189	4	11	80				1831	1
1.18		0.01	0.18	0.71	0.02	0.04	0.30				6.87	0
17.2		0.2	2.6	10.3	0.2	0.6	4.4				100	
25			363	34	114	24			9		2343	1
0.06			0.88	0.08	0.28	0.06			0.02		5.65	1
1.1			15.5	1.5	4.9	1.0			0.4		100	
127			358	65	54	8	13				1854	1
0.50			1.41	0.26	0.21	0.03	0.05				7.28	1
6.9			19.3	3.5	2.9	0.4	0.7				100	

場　　漁	操業區域	調査隻數	水温(°c)	流向 流速	操業回數	漁具數	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
西部印度洋	1°N—5°S 56°—69°E	10	25.8 29.2		219	89,892	415,299	尾　數 鈎獲率 百分率	32788 7.90 70.4	3572 0.86 7.7
西部太平洋 170°E 以西	20°—30°N 129°—157°E	25	22.0 29.3		352	98,327	472,191		1313 0.28 11.5	734 0.16 6.4
計		95			1726	597,371	2,812,806		76827 2.73 54.8	21250 0.76 15.2

（別表 1）

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんどまぐろ	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
6919			1468	403	563	156	184	126	34	247	46460	サメ未調査隻数 7
1.67			0.35	0.10	0.14	0.04	0.04	0.03	0.01	0.06	11.19	(1)
14.9			3.2	0.9	1.2	0.3	0.4	0.3	0.1	0.5	100	体長測定隻数 7
41	176		1043	10	1064	1020	105		567	5345	11418	0
0.01	0.04		0.22	0.0	0.23	0.22	0.02		0.12	1.13	2.42	19
0.4	1.5		9.1	0.1	9.3	8.9	0.9		5.0	46.8	100	
16652	180	3	11374	956	1971	1368	1011	310	1637	6529	140068	52
0.59	0.01	0.0	0.40	0.03	0.07	0.05	0.04	0.01	0.06	0.23	4.98	43
11.9	0.1	0.0	8.1	0.7	1.4	1.0	0.7	0.2	1.2	4.7	100	

Size Composition June 1955

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和30年6月操業分）

（別表3）

魚種	測定船數 (No. of boats)	漁場 (Area)	操業位置 (Position)	操業回数 (Station)		50cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151cm以上	計	漁獲尾數
きはだ (YF)	1	ハワイ南東	2°—3°N 160°—156°W	20	尾数 %				1 0.3	7 2.2	27 8.3	23 7.1	26 8.0	128 39.5	62 19.1	39 12.0	11 3.4	324 100	2110
	1	ハワイ南西 5°N 以北	10°—11°N 177°—176°W	12	fish %								3 30.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0		10 100	15
	3	ハワイ南西 5°N 以南	1°—5°N 178°—174°W	52							13 0.7	121 6.4	92 4.8	698 36.8	667 35.2	262 13.8	44 2.3	1897 100	3653
	1	南洋北部 170°E 以東	11°—12°N 172°—174°E	15									5 25.0	8 40.0	5 25.0	2 10.0		20 100	50
	1	南洋南部 170°E 以西	2°—9°N 146°—152°E	15					1 0.5	10 4.6	45 30.7	25 11.5	20 9.2	83 38.2	32 14.7	1 0.5		217 100	423
	4	〃 170°E 以東	0°—11°N 170°—179°E	79				5 0.3	10 0.6	6 0.4	45 2.6	133 7.8	145 8.5	554 32.4	533 31.1	204 11.9	77 4.5	1712 100	3504
	2	ソロモン	1°—8°S 171°E-178°W	30			2 0.3	12 1.6	21 2.8	32 4.2	87 11.4	118 15.5	84 11.0	185 24.3	144 18.9	63 8.3	14 1.8	762 100	2109
	2	フイリッピン東海	19°—20°N 128°—129°E	25							5 1.2	64 15.0	23 5.4	136 31.9	184 43.2	12 2.8	2 0.5	426 100	426
	1	アンダマン ニコバル	3°—8°N 88°—95°E	23						8 1.5	25 4.7	22 4.2	17 3.2	161 30.4	205 38.8	79 14.9	12 2.3	529 100	1179
	1	スマトラ 西岸	3°—5°N 93°—95°E	14									29 7.0	118 28.6	151 36.6	106 25.7	9 2.2	413 100	915
	7	西部印度洋	1°N—4°S 56°—72°E	156						29 0.7	140 3.2	401 9.2	86 2.0	615 14.1	1833 41.9	1143 26.1	129 2.9	4376 100	22644
	18	西部太平洋 170°E 以西	20°—29°N 129°—157°E	239					6 0.5	23 2.1	111 10.0	344 30.9	328 29.4	134 12.0	127 11.4	30 2.7	12 1.1	1115 100	1258

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回数		80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181cm以上	計	漁獲尾數
	〃	〃	〃	〃														〃	〃
	1	ハワイ南東	2°—3°N 160°—156°W	20	〃	1 2.0	2 4.1	2 4.1	6 12.2	7 14.3	6 12.2	5 10.2	9 18.4	7 14.3	4 8.2			49 100	112
	4	ハワイ南西 5°N 以北	10°—11°N 177°—174°W	52		13 1.5	3 0.4	4 0.5	25 2.9	70 8.2	118 13.9	132 15.5	145 17.1	154 18.1	131 15.4	39 4.6	15 1.8	849 100	1984

めばち	1	〃 5°N 以南	1°—5°N 178°—176°W	19		3 1.0		1 0.3	16 5.3	39 12.8	57 18.7	58 19.1	58 19.1	54 17.8	13 4.3	5 1.6		304 100	304
	1	南洋北部 170°E 以東	11°—12°N 172°—174°E	15					8 3.3	24 9.9	34 14.4	50 20.7	44 18.2	40 16.5	29 12.0	10 4.1	3 1.2	242 100	424
	1	南洋南部 170°E 以西	2°—9°N 146°—152°E	15		3 1.9	2 1.3	3 1.9	32 20.0	20 12.5	27 16.9	35 21.9	28 17.5	6 3.8	4 2.5			160 100	160
	4	〃 170°E 以東	0°—11°N 170°—179°E	79		1 0.2		1 0.2	14 3.4	53 13.0	49 12.0	63 15.5	112 27.5	82 20.1	18 4.4	8 2.0	6 1.5	407 100	793
	2	ソロモン	1°—8°S 171°E–178°W	30				1 1.5	10 15.2	9 13.6	12 18.2	7 10.6	15 22.7	7 10.6	5 7.6			66 100	113
	2	フイリッピン東海	19°—20°N 128°—129°E	25		1 1.2		6 7.4	43 53.1	8 9.9	7 8.6	7 8.6	5 6.2	3 3.7	1 1.2			81 100	81
	1	アンダマンニコバル	3°—8°N 88°—95°E	23		10 2.5	20 4.9	15 3.7	37 9.1	44 10.9	67 16.5	51 12.6	48 11.9	71 17.5	34 8.4	8 2.0		405 100	595
	1	スマトラ西岸	3°—5°N 93°—95°E	14					6 6.3	32 33.7	19 20.0	15 15.8	17 17.9	3 3.2	3 3.2			95 100	314
	7	西部印度洋	1°N—5°S 56°—72°E	156		17 2.1	24 3.0	37 4.6	74 9.2	75 9.4	79 9.9	84 10.5	105 13.1	172 21.4	106 13.2	27 3.4	2 0.2	802 100	2365
	17	西部太平洋 170°E 以西	20°—29°N 130°—157°E	231		4 0.8	3 0.6	7 1.4	138 26.6	120 23.2	62 12.0	69 13.3	64 12.4	34 6.6	15 2.9	2 0.4		518 100	549
びんなが	〃	〃	〃	〃		40 cm 以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm 以上			〃	〃
	1	ハワイ南東	2°—3°N 160°—156°W	20	〃						44 73.3	15 25.0	1 1.7					60 100	197
	2	ハワイ南西 5°N 以南	1°—5°N 178°—174°W	35							10 27.8	22 61.1	4 11.1					36 100	43

(別表 2)

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數		40 cm 以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm 以上			計	漁獲尾數
びんなが AL	1	南洋南部 170°E 以東	0°—3°N 170°—176°E	23	尾數 %						58 59.2	37 37.8	3 3.1					98 100	120
	2	ソロモン	1°—8°S 171°E-178°W	30						4 2.7	82 56.2	53 36.3	7 4.8					146 100	991
	1	フイリッピン東海	19°—20°N 128°—129°E	11								1 10.0	7 70.0	2 20.0				10 100	10
	2	西部印度洋	0°—3°S 58°—70°E	31								22 9.8	139 62.1	63 28.1				224 100	1568
	8	西部太平洋 170°E 以西	20°—29°N 133°—157°E	117							2 5.3	2 5.3	12 31.6	22 57.9				38 100	38
〃	〃	〃	〃	〃		140 cm 以下	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm 以上	〃	〃
くろまぐろ BT	1	フイリッピン東海	19°—20°N 128°—129°E	11	〃									1 100				1 100	1
	7	西部太平洋 170°E 以西	20°—29°N 129°—135°E	78				1 0.8		9 6.8	27 20.3	44 33.1	38 28.6	12 9.0	2 1.5			133 100	159
	〃	〃	〃	〃		140 cm 以下	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—260	261 cm 以上	〃	〃
くろ BM	1	ハワイ南東	2°—3°N 160°—156°W	20	〃	3 9.4	5 15.6	6 18.6	5 15.6	2 6.3	5 15.6	3 9.4	1 3.1	2 6.3				32 100	84
	4	ハワイ南西 5°N 以北	10°—11°N 178°—174°W	52		4 0.9	12 2.7	36 8.0	78 17.4	107 23.8	94 20.9	32 7.1	16 3.6	23 5.1	19 4.2	19 4.2	9	449 100	631
	1	〃 5°N 以南	1°—5°N 178°—176°W	19		9 10.5	10 11.6	14 16.3	16 18.6	11 12.8	9 10.5	5 5.8	5 5.8	3 3.5	2 2.3	2 2.3		86 100	132
	1	南洋北部 170°E 以東	11°—12°N 172°—174°E	15		1 1.3	1 1.3	5 6.5	23 29.9	20 26.0	7 9.1	7 9.1	2 2.6	3 3.9	4 5.2	3 3.9	1 1.3	77 100	143
	1	南洋南部 170°E 以西	2°—9°N 146°—152°E	15		9 18.0	6 12.0	14 28.0	9 18.0	2 4.0	2 4.0	2 4.0	4 8.0	1 2.0	1 2.0			50 100	51

かわ	4	〃 170°E 以東	0°—11°N 170°—179°E	79		25 8.2	34 11.1	38 12.4	57 18.6	51 16.7	39 12.7	15 4.9	14 4.6	14 4.6	7 2.3	11 3.6	1 0.3	306 100	568
	1	ソロモン	1°—6°S 172°E-178°W	22		4 11.1	5 13.9	9 25.0	6 16.7	4 11.1	1 2.8		1 2.8	1 2.8		3 8.3	2 5.6	36 100	99
	2	フイリッピン東海	19°—20°N 128°—129°E	25		7 4.5	25 16.1	54 34.8	25 16.1	13 8.4	10 6.5	2 1.3	4 2.6	7 4.5	3 1.9	5 3.2		155 100	155
	1	アンダマンニコバル	3°—8°N 88°—95°E	23				5 5.7	15 17.2	27 31.0	22 25.3	7 8.0	2 2.3	3 3.4	3 3.4	2 2.3	1 1.1	87 100	363
	1	スマトラ西岸	3°—5°N 93°—95°E	14			2 1.1	18 9.5	37 19.6	53 28.0	34 18.0	15 7.9	8 4.2	6 3.2	8 4.2	6 3.2	2 1.1	189 100	358
	7	西部印度洋	1°N—5°S 56°—72°E	156			1 0.3	22 7.4	63 21.1	77 25.8	57 19.1	25 8.4	8 2.7	8 2.7	11 3.7	24 8.0	3 1.0	299 100	1144
	19	西部太平洋 170°E 以西	20°—30°N 129°—157°E	274		26 2.7	80 8.4	256 26.9	236 24.8	97 10.2	34 3.6	35 3.7	50 5.2	52 5.5	42 4.4	36 3.8	9 0.9	953 100	975
しろかわ	1	ハワイ南東	2°—3°N 160°—156°W	20				1 50.0	1 50.0									2 100	2
	1	ハワイ南西 5°N 以北	10°—11°N 177°—176°W	12								1 33.3			1 33.3		1 33.3	3 100	4
	2	〃 5°N 以南	1°—5°N 178°—174°W	35			1 5.0	1 5.0	2 10.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0		5 25.0	20 100	21
	1	南洋北部 170°E 以東	11°—12°N 172°—174 E	15												1 100		1 100	2
	1	南洋南部 170°E 以西	2°—9°N 146°—152°E	15		1 25.0		1 25.0	1 25.0						1 25.0			4 100	4
	3	〃 170°E 以東	0°—3°N 170°—178°E	59			2 22.2	3 33.3	2 22.2	1 11.1						1 11.1		9 100	17

(別表 2)

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		140 cm以下	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—260	261 cm以上	計	漁獲尾数
しろかわ	1	ソロモン	1°—6°S 172°E-178°W	22	尾数 %					1 50.0	1 50.0							2 100	5
	1	フィリッピン東海	19°—20°N 128°—129°E	14		1 50.0								1 50.0				2 100	2
	1	アンダマンニコバル	3°—8°N 88°—95°E	23		3 7.5	1 2.5	5 12.5	3 7.5	2 5.0	5 12.5	7 17.5	8 20.0	5 12.5		1 2.5		40 100	40
	1	スマトラ西岸	3°—5°N 93°—95°E	14		11 28.2	13 33.3	6 15.4	7 17.9		1 2.6	1 2.6						39 100	65
	6	西部印度洋	1°N—4°S 57°—72°E	138		1 0.7	4 2.9	3 2.2	2 1.4	7 5.0	5 3.6	13 9.4	25 18.0	20 14.4	24 17.3	30 21.6	5 3.6	139 100	305
	4	西部太平洋 170°E 以西	20°—29°N 129°—157°E	62				2 22.2	6 66.7		1 11.1							9 100	9

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		100 cm以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm以上	計	漁獲尾数
まかじき	2	ハワイ南西 5°N 以南	1°—5°N 178°—174°W	35	〃	15 65.2	4 17.4		1 7.3					1 4.3	1 4.3		1 4.3	23 100	23
	1	南洋南部 170°E 以東	0°—3°N 170°—176°E	23		3 30.0	3 30.0	2 20.0							1 10.0	1 10.0		10 100	10
	1	ソロモン	1°—6°S 172°E-178°W	22											1 50.0	1 50.0		2 100	4
	1	フィリッピン東海	19°—20°N 128°—129°E	11				2 40.0			1 20.0		1 20.0	1 20.0				5 100	5
	1	アンダマンニコバル	3°—8°N 88°—95°E	23								1 1.1	13 14.4	40 44.4	26 28.9	10 11.1		90 100	114
	1	スマトラ西岸	3°—5°N 93°—95°E	14							1 3.8		5 19.2	11 42.3	9 34.6			26 100	54
	6	西部印度洋	1°N—4°S 56°—69°E	138							2 2.0	7 6.9	16 15.8	32 31.7	31 30.7	13 12.9		101 100	412
	18	西部太平洋 170°E 以西	20°—30°N 129°—157°E	238		1 0.1	13 1.6	104 12.8	160 19.7	54 6.6	99 12.2	177 21.8	140 17.2	44 5.4	12 1.5	8 1.0	1 0.1	813 100	829

めかじき	2	ハワイ南西 5°N 以南	1°—5°N 178°—174°W	35		1 14.3				2 28.6			2 28.6			1 14.3	1 14.3	7 100	11
	2	フイリツピン 東 海	19°—20°N 128°—129°E	25		1 14.3	1 14.3	1 14.3	3 42.9	1 14.3								7 100	7
	1	アンダマン ニコバル	3°—8°N 88°—95°E	23				2 15.4	1 7.7		1 7.7	3 23.1	3 23.1	1 7.7	2 15.4			13 100	24
	1	西部印度洋	1°—3°S 58°—60°E	23						3 17.6	2 11.8	4 23.5	3 17.6	4 23.5	1 5.9			17 100	17
	18	西部太平洋 170°E 以西	20°—30°N 129°—157°E	238		53 14.3	35 9.5	28 7.6	41 11.1	48 13.0	61 16.5	33 8.9	30 8.1	21 5.7	10 2.7	4 1.1	6 1.6	370 100	384

營業種目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

冷凍・冷藏・製氷工場 急速・空氣凍結製置 冷房製置・冷凍機械器具 防熱裝置・船舶冷凍冷藏	設計 製作 施工

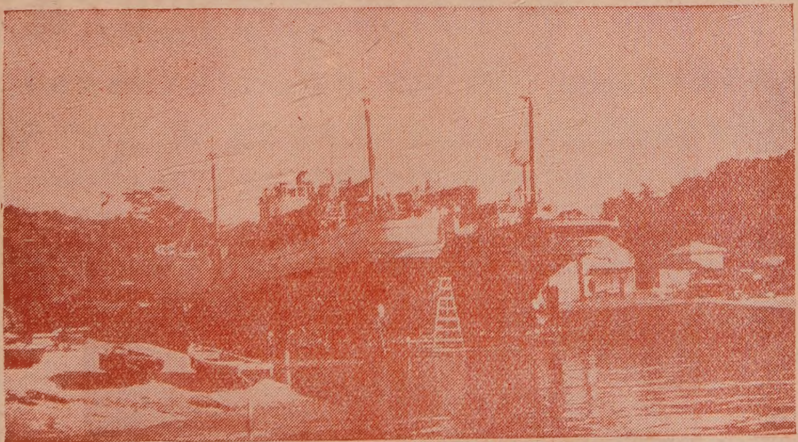
協同低溫工業株式会社

本社 東京都千代田區神田佐久間町河岸 58 号（夏目ビル二階）

電話下谷（83）0996番

鋼木船造修一般

四百屯船台二基



五百屯船台一基

三崎船舶工業株式会社

神奈川縣三浦市三崎港（電話 三浦 343 番）

▷ 最高の技術 ═══ 永い信用 ◁

営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオヒーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　町田辰次郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話 砧(41)(代)7171―9番
電話 武蔵調布 472番
東京營業所　東京都港區芝西久保櫻川町 9　電話 芝(43)代表7373―9番
大阪出張所　大阪市北區中之島2の25(江商ビル508号室)　電話 北浜(23)4553番
福岡出張所　福岡市天神町55(伊藤ビル)　電話 中(4)2589番

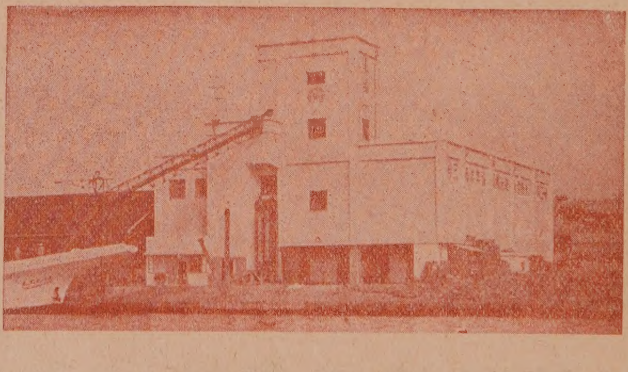
漁船の氷，餌料の仕込は

砕氷設備毎時50屯2基完備

(向ケ崎・花暮岸壁)

凍結能力 日産一七屯
冷蔵収容量 六〇〇屯

製氷能力 日産五〇瓲
貯氷能力 五五〇瓲



三崎漁業協同組合連合会 (製氷冷凍工場)

会長　寺本正市

(神奈川県三浦郡三崎港 TEL三崎609・655番)

本会の図書誌の分譲其他について

◎本会發行の圖書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。漁場天氣圖は本会にて研究の上編集制定したものでありますから同方面の漁場へ出漁する漁船は是非御利用下さい。

会　　誌【鮪漁業】第6—25号	各100円	郵送料	16円
鮪類水揚地調査報告（自昭和27年5月　至昭和28年4月）			
1　部　300円（B5判150頁）		郵送料	24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和28年5月　至昭和29年3月）			
1　部　400円（B5判226頁）		郵送料	40円
漁場天氣圖（東部印度洋、25°N—25°S　西部太平洋 80°E—150°E）昭和29年8月版			
1　部　250円（B3判50枚綴）		郵送料	48円
鮪漁船操業圖（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）			
1　枚　50円		郵送料	8円
鮪　漁　場　圖（32海区劃に表示したもの）			
10　枚　100円		郵送料	16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞を御願いします。

◎本會に入會を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費1000円（他に會誌送料200円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本會伊藤専務理事迄御申込下さい。

鮪漁船必携の教書とも云ふべき昭和29年度鮪類水揚地調査報告（B5判226頁）が出來上りましたから御希望の方は代金440円（送料40円を含む）を添えて本会宛御申込下さい。

鮪　漁　業

定價100円・送料16圓

（1955年11月号）

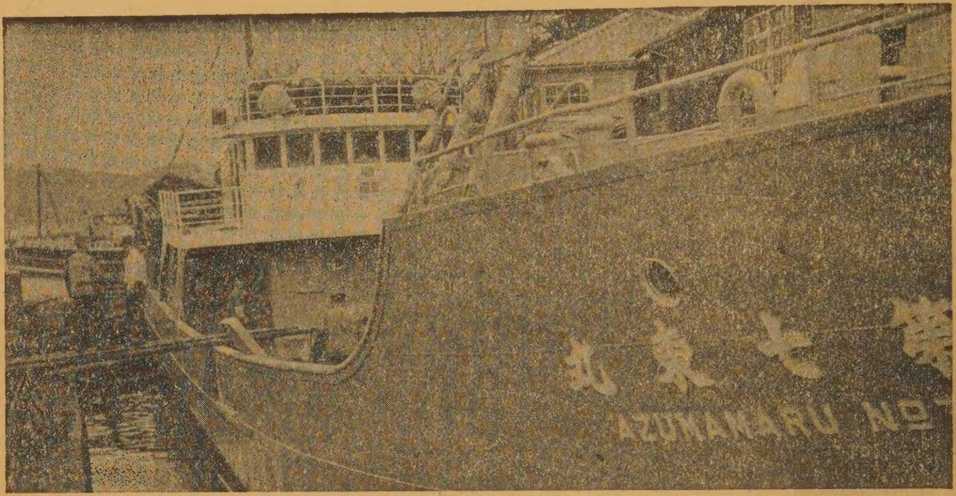
昭和30年11月25日印刷
昭和30年11月25日發行

監　　集　神奈川縣水産試驗場調査部
編集兼發行人　菅　野　進
神奈川縣三浦市　神奈川県水産試驗場内
發行所　鮪漁業研究会

大型漁船の御用命を待つ！

下田船渠株式会社設備概要

乾　船　渠　500 屯 ─ 1 基
引 揚 船 架　500 屯 ─ 1 基
（最新算盤式完成）
同　　　上　300 屯 ─ 3 基
其の他鋼木造船造修設備一式



下田船渠株式会社で修理中の大洋漁業所属まぐろ船第七東丸（310 噸）

下 田 船 渠 株 式 会 社

取締役社長　沢 村 久 右 衛 門
常務取締役　沢　村　正　三
静 岡 県 下 田 港　電 話 伊 豆 下 田 9・10・53
東京事務所　港區芝田村町4の13　電 話 芝 (43) 2539

輸出ヴイタミン油・罐詰・冷凍魚・遠洋漁業・各種魚類肝臓買付

湘 南 水 産 工 業 株 式 会 社

神奈川県三浦市三崎町二町谷 3506 の 4
電 話 三 浦　370 番・362 番